

# 学期レポート2006年夏学期 (6月6日~8月15日)



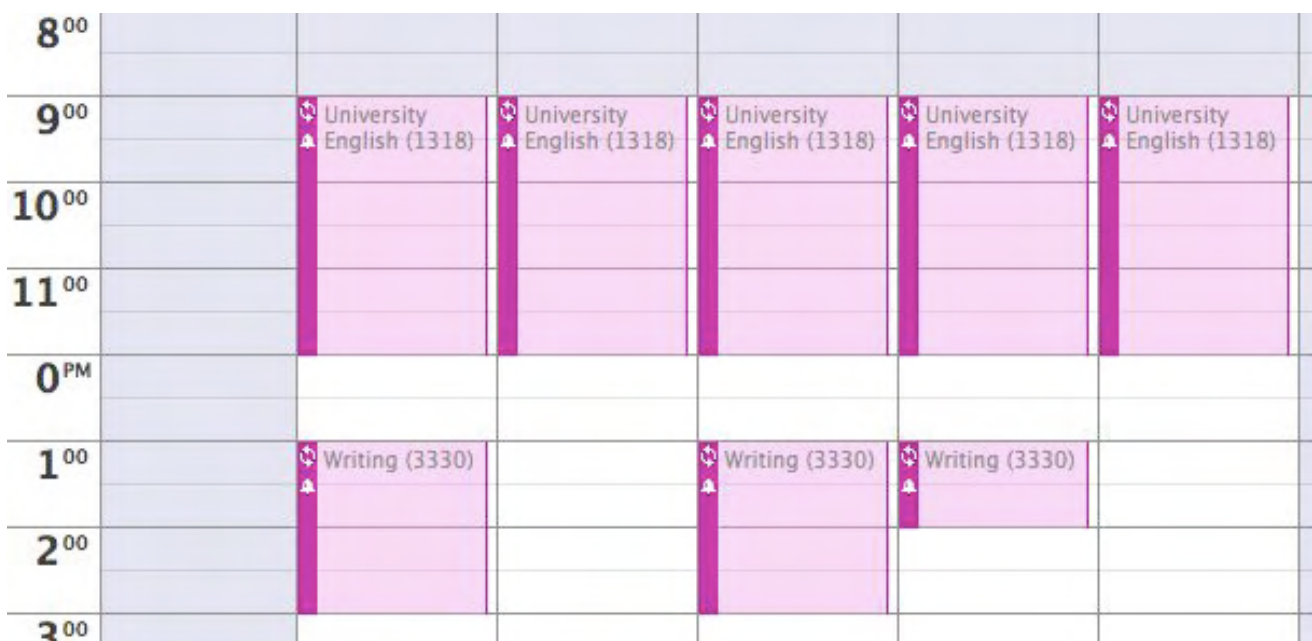
第一期生 太田琢磨

## ロチェスター工科大学、国立聾工科大学の夏

オンタリオ湖の近くにあるロチェスターは、7月に入りやっと春が終わる気配が感じられるようになってきた。まだ夏の気配は感じられないが、このレポートを通してロチェスターの夏を味わっていただけたらと思う。

### 夏学期前半 (6月)

夏学期の前半戦である4週間のコースがELCで始まった。ロチェスター工科大学のELCでは、夏学期の間だけ授業が4週間と7週間を合わせて一つの学期を構成している。その理由は、里帰りする国際学生のための一時帰国期間と、短期留学生がやってくるためである。一時帰国をしない学生は最初の4週間で英語学校へ通う。この学期は、英語学校の学生が最も増える時期でもある。日本では7月はジメジメした暑さに襲われる時期であるが、ロチェスターは空気が乾燥しているため日本と比べると涼しく感じられる。しかし、教室内は強力な冷房が常にかかっており、冷房の苦手な私はいつも長袖で学校に通ってました。それだけでなく日の沈む時間がどんどん遅くなってきており、夜の九時前後まで日が沈まないというのがロチェスターの夏である。そのせいか体内時計が狂ってしまい、夕食を食べる時間が遅くなったり寝る時間が遅くなってしまふこともしばしばあった。



また、一ヶ月の特別コースのため、授業編成も大幅に変わった。文法などと言った形で細かく区分されているわけではなく、「University English」と言う名前で、すべて一つの授業として構成されている。授業は毎日教員が入れ替わるため、いつも同じ授業ではないが、授業を通してアメリカの文化や授業スタイルを学んでいこうという方針で行われているように感じた。具体的な内容を挙げると、ノートの取り方から始まり、単語の覚え方、英英辞典の使い方、文章を要約する技術

(summary)、作文の技術 (essay) などである。

授業時間は、月曜日から金曜日すべて朝九時から十二時まで。また隔日でライティングの特別コースを取った。午前中の三時間はすべて同じ授業が続くため、これまでと違って授業が長く感じさせられた。個人的には今までの一時間区切りで休憩時間が取れる方が、授業に集中し続けられたのだが、今回は授業が三時間ぶっ通しで授業が行われることもあったため、授業が長いと感じてしまったので



英語学校の学生達と

あろう。またライティングのクラスは前学期と比べてかなり難しくなっており、授業と宿題をこなすことで精一杯という状態であった。このような状況で落ち着いて英語に取り組めないまま、この一ヶ月は一気に過ぎ去ってしまった。それに加えて、前学期とは比べものにならないくらい大量の宿題が出たため、落ち着いて勉強できない状態でした。宿題をこなすだけでやっとこといった感じであった。その為、毎晩夜の二時三時頃まで宿題をやっていると言うこと状況が恒常化し、寝不足のままクラスに行くことも多々あった。



ロチェスター工科大学の英語学校

### 夏学期後半（7月～8月）

9 <sup>00</sup>	Grammar I3 (3330)	Writing I3 (1318)	Grammar I3 (3330)	Writing I3 (1318)	Grammar I3 (3330)
10 <sup>00</sup>	Reading I3 (3330)				
11 <sup>00</sup>		Vocabulary I3 (1318)		Vocabulary I3 (1318)	Reading I3 (3330)
0 <sup>PM</sup>					
1 <sup>00</sup>	Sports English (1318)	Idioms (1310)	Sports English (1318)	Idioms (1310)	
2 <sup>00</sup>					

後半は、日本やカザフスタンの短期留学生が多く入ってきたため、以前に増してにぎやかになった。そのような中で改めて異国の学生とふれあうことで、その国の特徴や考え方など様々な観点から学ぶことが出来た。特にカザフスタンの学生達は容姿も比較的日本人と近いため、時に話していて不思議な気分になることも多々あった。口話でのコミュニケーションにも少し少し慣れてきたため、それに伴って彼らとの

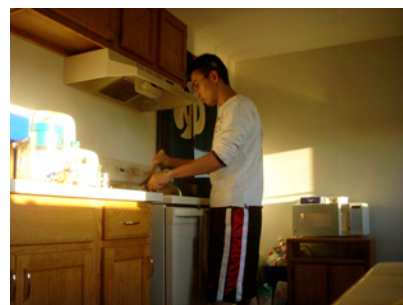
コミュニケーションを楽しめたと言うことは、自分の英語力も少し少しではあるが伸びてきていると実感する良い機会となった。また、クラスには2名ろう学生がおり、彼らと会話をするときにはASLで会話をしていた。

また、7月の授業から、CPrint（パソコン要約筆記）から手話通訳に、授業での通訳方法を変更をした。理由として手話の読み取りに慣れてきたことと、9月から本格的に始まるインターンシップに向けて手話コミュニケーション力をあげていくという目的があったためである。いずれにせよ手話の能力もまだ十分ではないが、今学期は授業との兼ね合いで手話のクラスを取ることが出来ないため、手話通訳者を通して様々な手話表現を学んでいった。



英語学校の入っているビル

8月に入り授業は総まとめの時期に入った。その関係で最終レポートやらプレゼンテーションの準備などで大忙しとなった。特に今回のプレゼンテーションは私にとって初めての英語で行うプレゼンテーションであり、その前の夜はほぼ徹夜で準備を行った。このプレゼンテーションでは、あるスポーツもしくは武道から自分の好きな物の一つを選び、そのスポーツの歴史やルールなどを5分間で行うと言う課題である。わたしは、日本で長年たしなんでいる「合気道」をテーマにあげ、スライドを作成した。当日プレゼンテーションを手話で行うか口話で行うか悩んだが、最終的に口話で行うことにした。情報保障として手話通訳者に来ていただいていたが、手話通訳者には学生からの質疑応答の時のみに対応してもらえるようお願いをした。プレゼンテーション本番では、なかなか英語の単語が思い浮かばずに、自分の分かる範囲での簡単な表現困惑したとも多かったのだが、学生や教員からも良い評価を頂くことが出来た。授業で学んだ、アメリカ式のやり方



夕食の準備中

のプレゼンテーションが出来ていたとは言いがたい。今後プレゼンを行う機会も増えてくるため、より様々な表現で聞き手に情報を伝えられるように、腕を磨いていかななくてはならない。8月の2週目にまとめて期末テストが行われ、さらに第3週目の頭には毎度おなじみのミシガンテストが行われた。



チベットから来た留学生と

これにて六ヶ月間の英語学校での英語研修はすべて終わったがいずれにせよ、十分な英語力が身についたとは言い難い。英語力は高ければ高いほど今後の生活がより豊かになっていくことは間違いないが、焦らずじっくりと取り組んでいきたい。

### インターンシップに向けての準備

ミシガンテストの後は基本的に2週間ほどの夏休みとなるのだが、私は新学期から始まる大学院の授業に向けて、PEN-Internationalで準備を行っていた。次の学期には、本格的に私の留学目的である情報保障に関する調査やインタビューが始まる。その為の資料集めやインタビューの予約や、インタビューのための調査項目作りなどである。また、今後の流れや授業に関するミーティングなども行われた。来月からはよいよ留学のテーマに向かって研究を進めていくことになる。